

BPO

導入事例

日本体育大学 様



外部委託に強い不安。

それでも円滑に立ち上げ、『心からのサポート』を実施



導入前の

課題

- ▶ 手続きが煩雑なうえ、ミスが許されない業務
- ▶ 制度が増加しており、手が回らなくなる危機感もあった
- ▶ 外部委託は検討課題だったが、強い不安があった



導入後の

成果

- ▶ 検討からわずか5ヶ月でのスムーズな立ち上がり
- ▶ 業務の効率化を図り、心に余裕を持って学生をサポート
- ▶ 職員の負荷も減り、コロナ禍でも学生支援に注力できるように

お客さまの
声

業務の本来の目的は、学生を支援することです。外部委託をすると、支援が必要な学生を見逃すのではないかと、あくまで自分たちで学生の面倒を見たいと考えていました。

奨学金業務が扱っているのは書類などではなく、学生の人生ですからね。

今は一人ひとりに寄り添える体制ができていると感じています。

同じ思いで取り組んでいただいているパーソルテンプスタッフの皆さんと連携をとりながら、今後も学生への支援を充実させていきたいですね。

日本体育大学 学生支援センター 生活支援部門
事務長 緒方 美保 様



外部委託をすると「支援が必要な学生」を見逃すのではないか

創立以来オリンピック選手をはじめとする数多くのアスリートを輩出してきた日本体育大学。

奨学金制度を利用する学生がもともと多い傾向にありましたが、そういった学生を支えるのが、**学生支援センター**です。

いわゆる“学生課”にあたる部署で、学生生活に関わる事務、相談、カウンセリングから、部活動を統括する学友会の事務、寮の管理など、多岐にわたる業務を行っています。

その学生支援センターでは『奨学金業務』も行っていましたが、業務量が多いために「外部委託の検討」が、以前から課題として挙がっていたようです。

しかし、学生支援センターの事務長である緒方様は「手放す気はなかった」と言います。



「実際に外部委託した他大学の担当者からは、他の業務に注力できるといったメリットも聞いていました。それでも私としては、奨学金業務を手放すつもりはありませんでした」

しかし、給付型奨学金の支給も実施されるため、**学生支援センターの業務はさらに増加**することとなりました。そうして、本格的に外部委託の検討を進めざるを得なくなっていたのです。

検討からわずか5ヵ月で立ち上げも、円滑にスタート

パーソルテンプスタッフが受託をすると、検討からわずか5ヵ月で立ち上げる、急ピッチなスケジュールでした。それでも円滑にスタートできたのには、いくつかの要因があります。

ひとつはパーソルテンプスタッフが持つノウハウです。**30を超える大学で奨学金業務を担当**しており、知識の蓄積がありました。

そしてもうひとつの要因は、スムーズに業務を立ち上げるための工夫を施したのです。

効率化によって心に余裕を持ち、学生をしっかりとサポート

さらにパーソルテンプスタッフでは、奨学金業務を進めるにあたって新たなシステムなどを導入するのではなく、業務を進めるうえで『**スタッフの動線**』や『**書類の流れの見直し**』、『**回収のタイミングの工夫**』などによって効率化を図っていきました。

そうして、そこで生みだされた時間によって心に余裕を持つことができ、その状態で学生の話じっくり聞きます。**その会話の中から様々なことを引き出して、さらにサポートを充実**していったのです。

『コロナ禍での学生支援』に力を入れることができた、と吉田主任は次のような言葉とともに口にしてくださいました。

日本体育大学
学生支援センター
学生支援部門
主任
吉田 紫 様



「パーソルテンプスタッフさんに担当していただいたことで、**学生のサポートも充実**させることができていると感じています。数年後に数字としても効果が現れるのではないのでしょうか」

